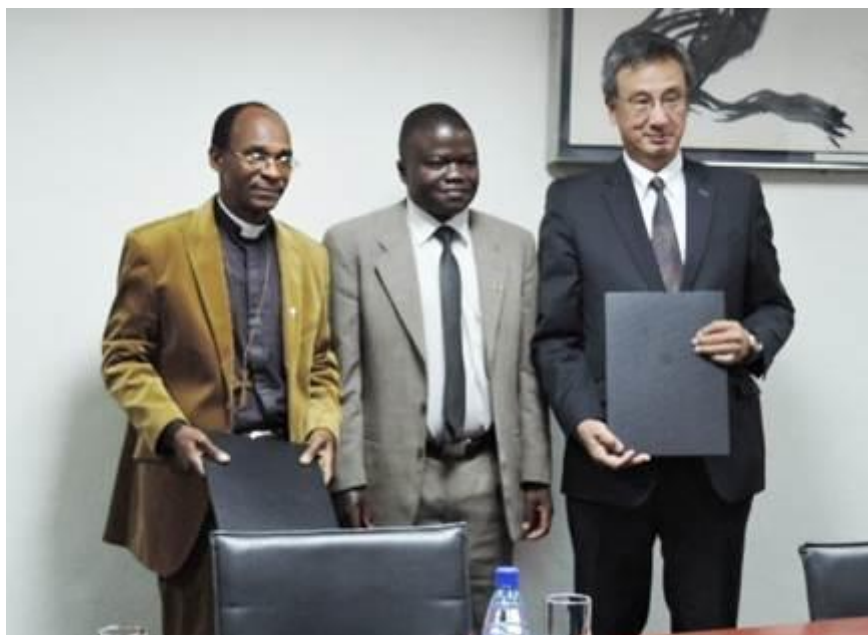


20150831 草の根・人間の安全保障無償資金協力  
「ンコタコタ県セント・アンズ病院中古救急車整備計画」  
署名式

2015年8月31日



右より:西岡大使、クンパルメ保健大臣、バンダ神父

2015年8月31日、西岡周一郎大使とメケ・バンダ神父(マラウイ湖教区)は、「ンコタコタ県セント・アンズ病院中古救急車整備計画」に関する、草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。本契約署名式は在マラウイ日本国大使館で行われ、クンパルメ保健大臣が臨席しました。

ヘルスサービスへの普遍的アクセスの達成は、全ての人々の生活の質を向上させるために不可欠です。マラウイでは人口の半分以上が農村部で生活しています。それらの地域にある医療施設では、医療設備、医薬品または医療従事者の数が不足しているため、質の高いヘルスサービスへのアクセスが限られています。そのため、農村地域まで医療サービスへのアクセスを拡大するために、患者移送システム及び地域ヘルスサービス供給の改善が課題となっています。しかし現状では、救急車の数が不足しているために人々の医療サービスへのアクセスは限られており、実際に病院に辿り着く前に命を落としてしまう人もいます。

マラウイ湖教区セント・アンズ病院はンコタコタ県に2つある二次医療提供病院の一つです。当病院は、農村地域も含めた県内住民への医療サービスの提供に努めています。しかし、必要医療器具を備えた救急車がないため、病院は適切な患者緊急移送サービスを提供できていません。そこで日本政府は、中古救急車を整備することでより多くの人々が適切な医療サービスを受けられるよう、セント・アンズ病院に対し26,385米ドルの資金贈与を行うことを決めました。この計画では、日本の自治体から寄贈された中古救急車2台を整備し、日本からマラウイに輸送する予定となっています。

式典で西岡大使は、救急車を整備することで、セント・アンズ病院と他の医療機関との間の患者移送システムが改善するとの期待を述べました。また救急車を利用することで、病院から離れた地域にも適切な医療を提供できるとの考えも示しました。